

「今、戦争・平和」について私たちの思い・声を形に」企画
第三期（2023年3月）投稿分

- ・ ロシアがウクライナに侵攻して一年が過ぎ、私たちは毎日テレビや新聞の報道で悲惨な状況を見聞きし、「どうして」と胸がしめつけられる思いと、「何故、戦争するの」と憤りを感じています。被爆地広島に生まれ、現在も生活する私は、「平和で核なき世界」を願ってきました。

実は、私の家は浄土真宗の寺院です。原爆が投下された直後から、大勢の被爆した人達が身を寄せてこられ避難場所になりました。当時3歳であった私は、その時の光景を目にしていませんし、覚えていません。それは、私たち姉妹がその悲惨な光景を目にしないように両親が心遣いしたのではないかと思います。被爆者である両親は、その時の惨状を一生語ろうとしませんでした。戦後78年過ぎた今も、家族の方が行方を探して訪ねてこられます。その度に、このようなことは二度とあってはならないと感じています。

今こそ「被爆地からの声」として、<世界平和>を希求し、<核廃絶>をつよく訴えていきたいと思ひます。

- ・ 戦争は権力による犯罪と認識された新ミレニアム
- ・ 権力の暴走防止するルール慌てず怠けず定めて行こう
- ・ 二国間で始まった戦争が、日本を含めた他国の対応により、いつの間にか世界大戦へと突き進んでいく恐怖を覚えます。この動きを止め、反転させるには何をすべきか苦悩の日々です。